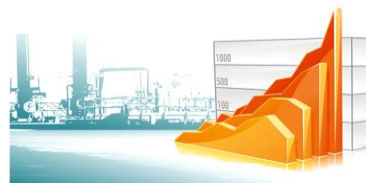


ぎふ経済レポート



平成28年11月分
岐阜県商工労働部

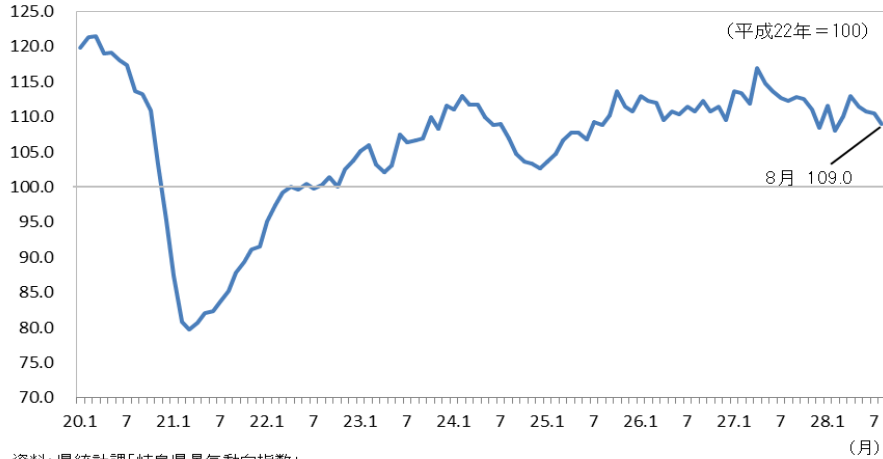
※企業等へのヒアリングは 11月28日～30日を中心に実施し、12月8日に作成。

景気動向

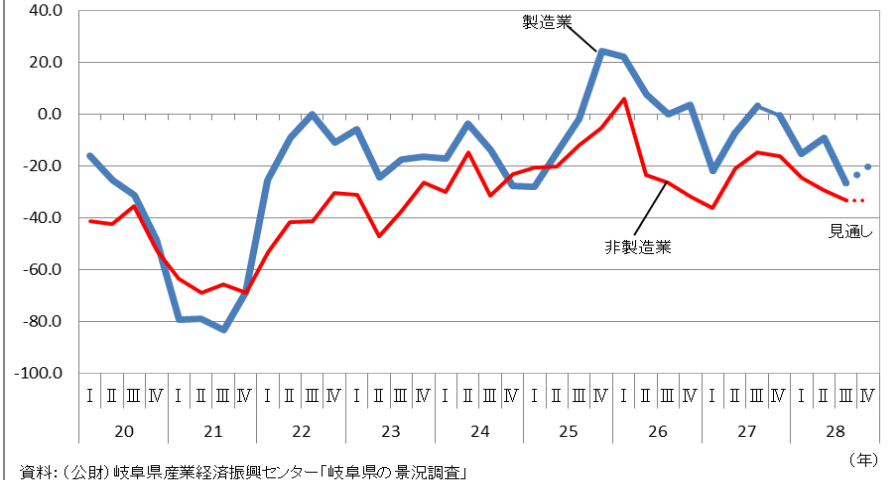
- 8月の景気動向指数(一致指数)は、109.0と前月より1.5ポイント下降した。
- 10月の県内中小企業の景況感は、マイナス23と前月より3ポイント下降した。

- 平成28年7-9月期の売上高DIは、製造業が17.4ポイント減少、非製造業も3.9ポイント減少した。一方、採算DIは、製造業が1.6ポイント減少、非製造業も8.3ポイントの減少となる。

岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



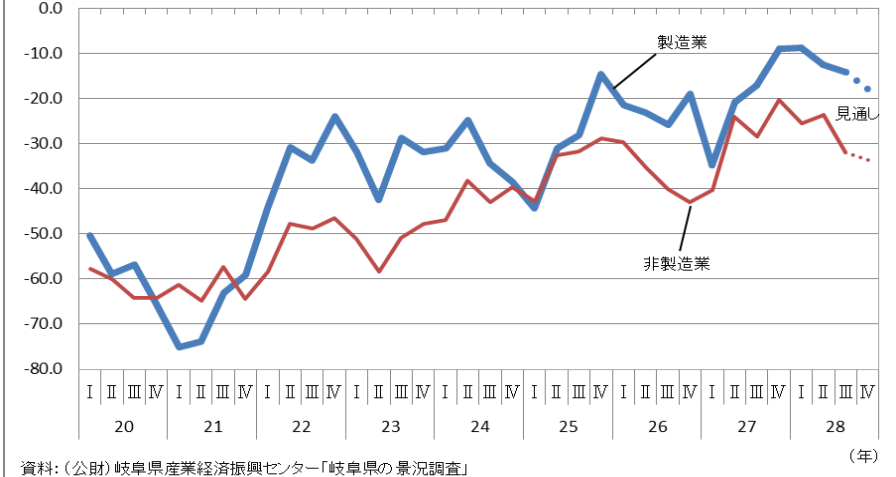
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の採算DI(増加-減少)の推移

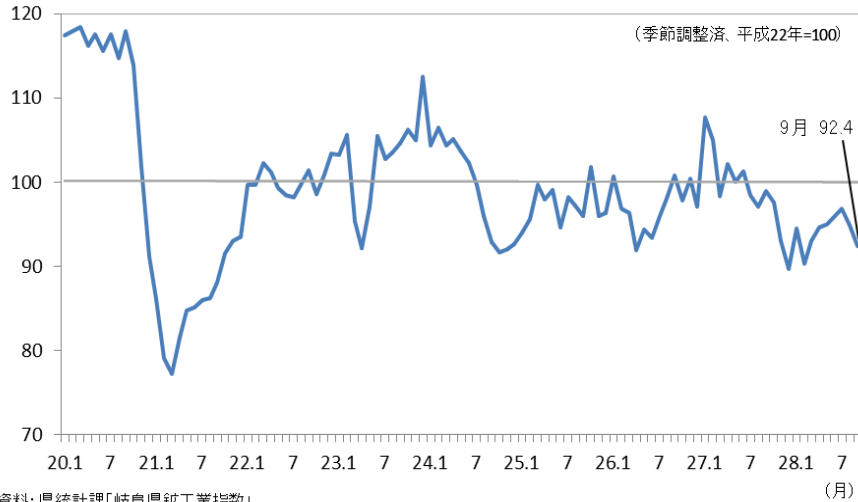


製造業

- 9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比2.6%減少し92.4となる。
- 化学工業、繊維工業など一部産業の大幅な下降により、2ヶ月連続してマイナスとなる。

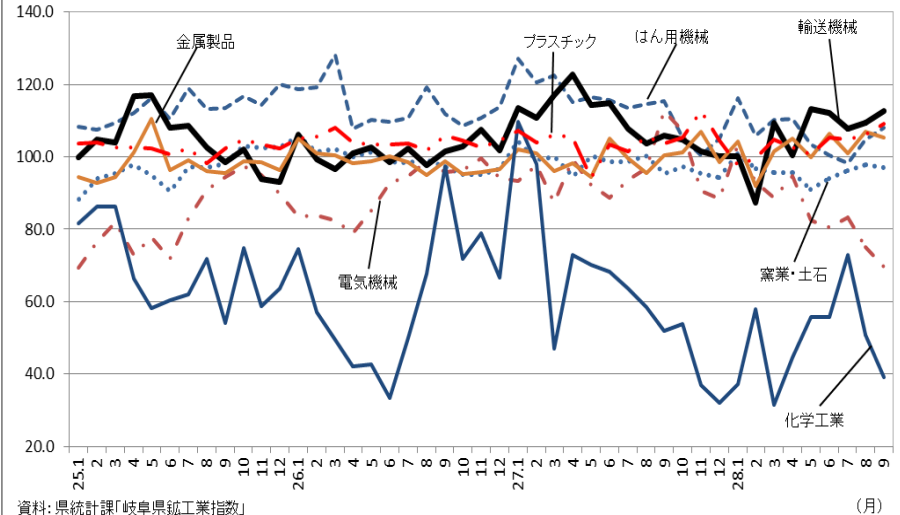
- 9月の主な産業の鉱工業生産指数は、電気機械、化学工業を除くその他全ての産業で前月比ほぼ横ばいで推移した。
- 化学工業は大幅な乱高下を繰り返している。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



現場の動き

- ◆売上は前月比増加。11月から航空機関連の出荷を開始し、今後は受注を増やし、極力多くの工程を自社で生産していく。
- ◆売上はエンジン部品の量産が始まり、増加している。(以上、輸送用機械)
- ◆売上は前年同月比微減。受注量は横ばい。気候の影響により、おでん容器の販売が伸び悩んだ。(プラスチック)
- ◆売上、受注量はともに横ばい。カーエアコンの受注が増加する一方、デジタルカメラは低調である。(電気機械)
- ◆売上、受注ともに前年比減少傾向が続いており、現状受注回復が見込めない状況にある。(金属機械)
- ◆売上、受注量は前年同月比110%強。中国の建設機械の需要回復により、油圧部品の受注が急増。(生産用機械)
- ◆売上と前年比3割増。中国の景気刺激策のインフラ整備への投資が影響していると思われる。(はん用機械)
- ◆売上の上位は健康食品(通信販売)が占めており、大きな伸びはないが堅調に推移。飲料は前月並み。(食料品)

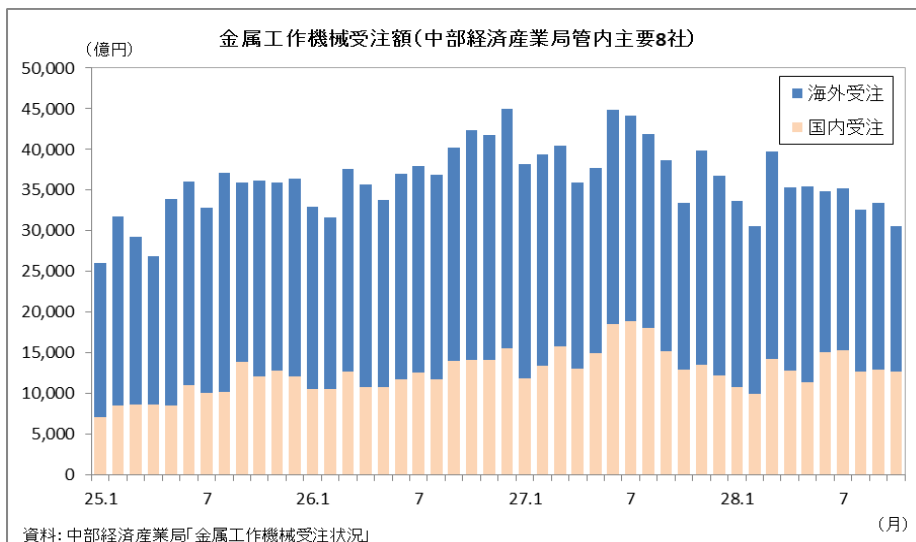
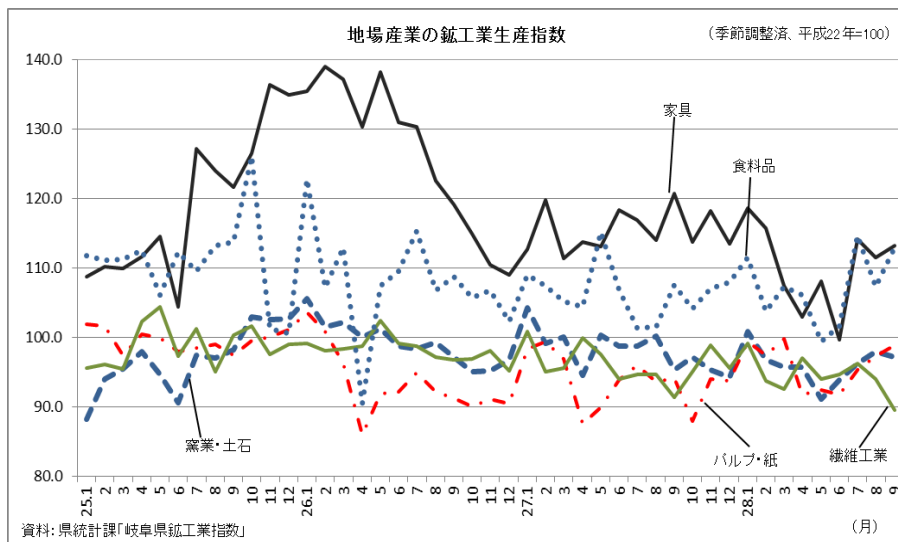
製造業-2

○9月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業が下降、窯業・土石が微減、その他業種は軒並み上昇した。

○繊維工業を除き、今年度に入り、指数はおしなべて上昇傾向にある。

○10月の金属工作機械受注額は、前月比国内受注は微減、海外受注は大幅減となり、全体では本年2月に迫る低調な水準となる。

○前年同月比で見ると、受注額は8.4%の減少となり、14ヶ月連続で前年を下回る。

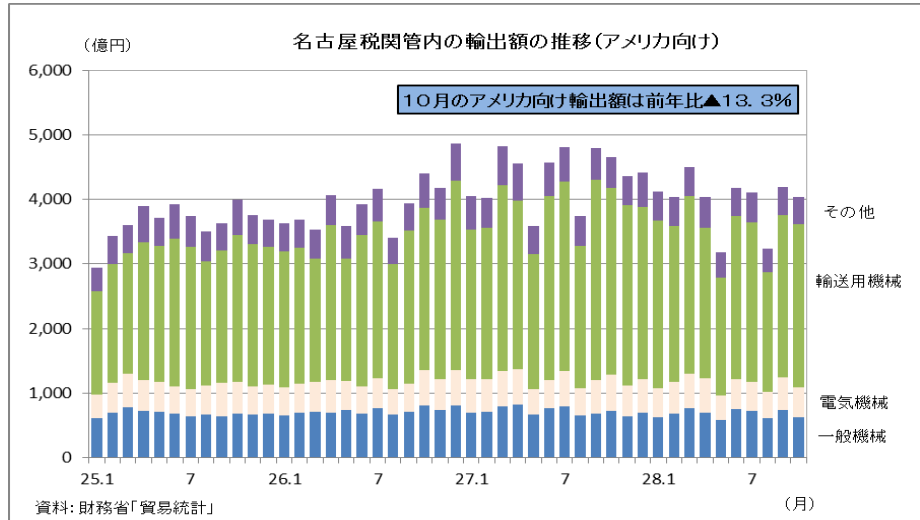
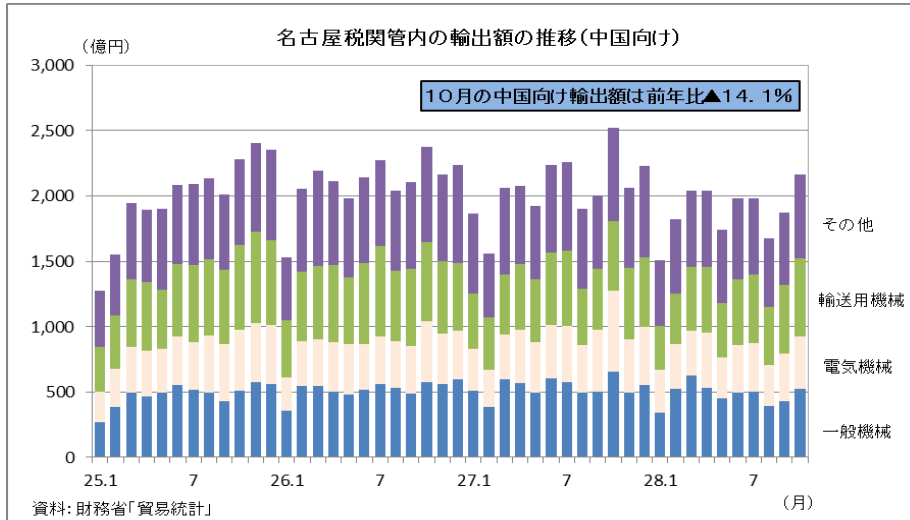
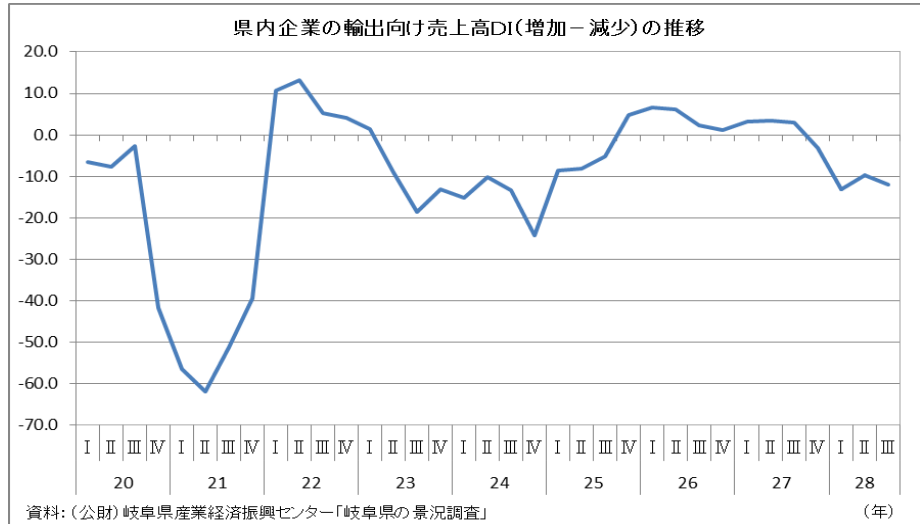
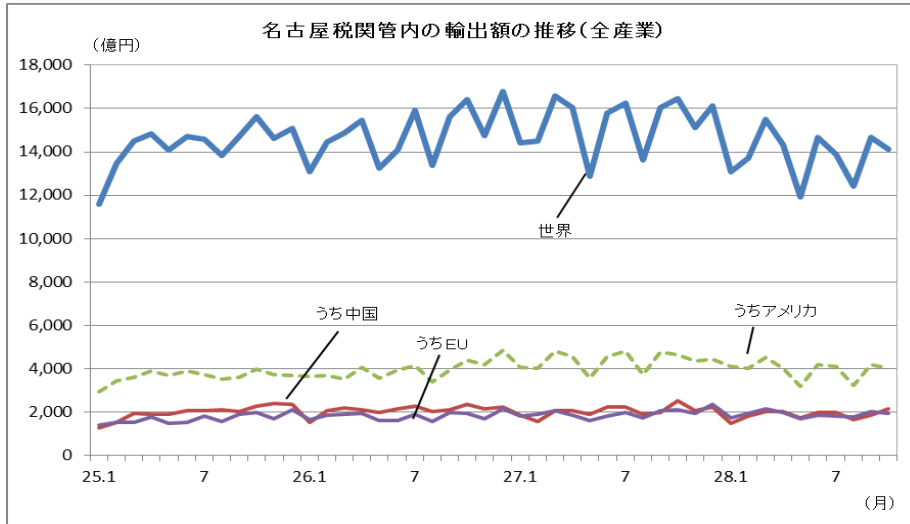


現場の動き

- ◆国内向けは芳しくない。海外(東南アジア、中国、欧米)への輸出が円安の影響もあり牽引している状態。(陶磁器)
- ◆売上は前年比減少傾向。商品の販売価格が低下しており、縫製業にしわ寄せがきているため、特に縫製業の利益率が減少している。(アパレル)
- ◆売上は横ばい。受注は増えているが、人手不足で製造が追い付かない。外注に仕事を出しても、外注先の後継者不足からか、なかなか引き受けてもらえない状況であり、現状派遣社員で対応している。(刃物)
- ◆売上・受注ともに横ばい。月末に地域活性化ファンド助成金に採択され、今後は商品開発に着手していく。(紙業)
- ◆春夏より秋は新規OEM(神仏具)等、まとまった受注があった。但し、年間で比較すると、売上は昨年と同程度。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 10月の輸出額は1兆4,109億円で、前年同月比14.3%減となり11ヶ月連続で前年を下回った。
- うち中国向けは、全産業で増加傾向にあり、本年最高額となるものの、8ヶ月連続で前年を下回る。
- うちアメリカ向けは、輸送用機械が微増となる一方、その他産業の減少により、8ヶ月連続で前年を下回る。
- 県内企業の輸出向け売上高DIは、昨秋から続くマイナスに下げ止まりが見られる。



為替・原油価格の動向による影響について

- ◆原油価格が上昇傾向にあり、発電等で重油を使用しているため、収益への影響を懸念している。(プラスチック製品)
- ◆2か月程度円高に振れ、その後円安に戻ってきた。ドル建て円に移したため為替差益(2000万円程度)が出た。
- ◆社内での想定レートは100円/\$に修正済みであり、直近の円安(水準)とは乖離するが、業務上は修正を行わず、そのまま差(損)益により業績を出すこととなる。(輸送用機械)
- ◆燃料価格が上がり始めており、動向に注視している。OPEC総会での減産決定の影響も心配している。(運輸業)
- ◆惣菜の原料は輸入品を使用することもあり、為替動向の煽りを受けることもある。(食料品製造)

アメリカ大統領選挙結果の影響について

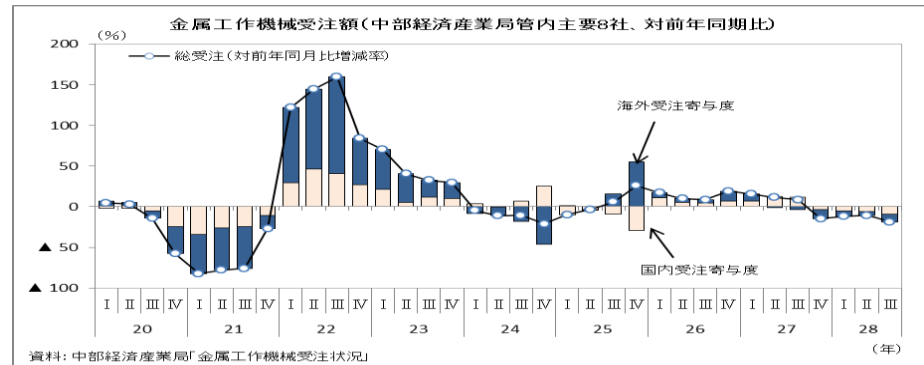
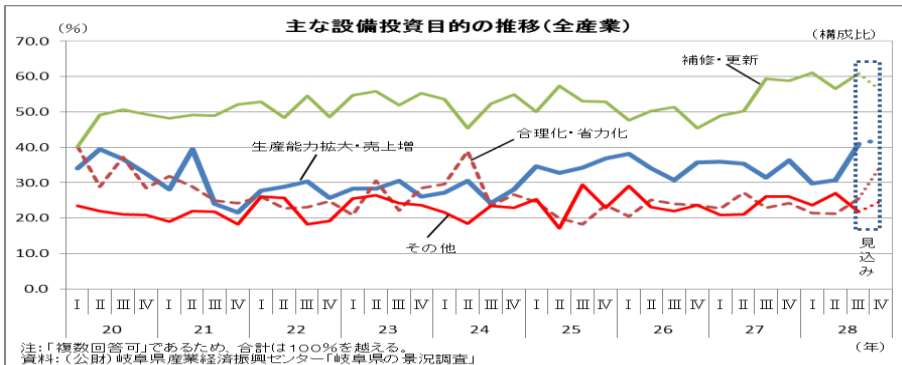
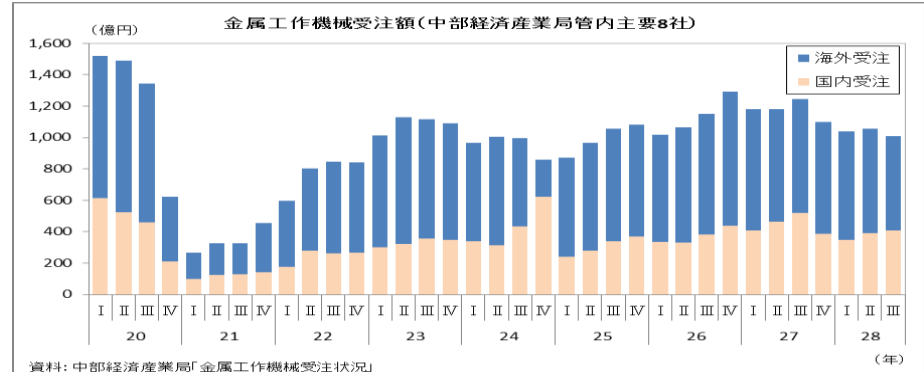
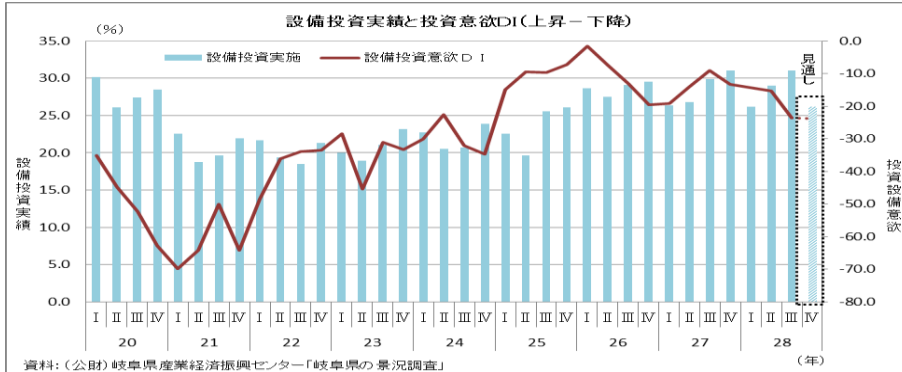
- ◆メキシコに拠点を置く準備を進めているため非常に不安である。動きを注視している。
- ◆選挙期間中の発言から、今後の多くの対日政策がマイナス方向へ進むと感じる。(以上、輸送機械)
- ◆期待感が先行して、円安・株高など経済環境の変化が見られるが、影響はこれから出てくると考えられる。(金融ほか)
- ◆円安の傾向が続けば、工作機械等の輸出関連企業が好影響を受け、若干の受注回復が期待できる。(金属製品)
- ◆アメリカの利上げ等を含め金融政策が変わった場合、住宅ローン金利への影響を懸念している。(製材・住宅)
- ◆次期大統領の政策がはっきりしない現状では不明。または影響なし。(輸送機械、小売業、地場産業全般、ほか)

業界トピックス・トレンドについて

- ◆先日のダイカストの展示会では、中国企業の出展が多かった。製品の質は不明だが、安さを武器に売込をかけている。
- ◆自動車関連部品は全体が良いわけではなく、各社まちまち。T社向は好調、H社は上向き、M社は厳しい状況である。
- ◆アメリカで走っている車の6割は日本車で、ほとんどが現地生産車。プリウスなど一部は輸出。(以上、輸送機械)
- ◆一刀彫や春慶塗の伝統工芸士とグループを作り、地元の一般の方と意見交換をしながら新商品開発に取り組んでいる。(木工)
- ◆スギの持つ効能に着目した空気浄化装置が、良い評価を受けた。今後各種データを検証の上、本格生産を検討。(木材)
- ◆住宅は高級層とローコスト層の二極化する傾向にあり、中級層が少ない。業界としてはローコスト層に動いている。(住宅)
- ◆金融庁が示したベンチマーク指標及びその対応策や投資信託手数料について関心が向いている。(金融)
- ◆地域貢献(コミュニティの場や観光情報の提供)を実施し、客数を増やす取り組みを進めている。(大型商業施設)
- ◆ファミリーマートとユニーGHの経営統合により巨大コンビニチェーン誕生。岐阜県では12月初旬に転換1号店が誕生予定。(コンビニ)

設備投資

- 平成28年7-9月期の設備投資実績は前期から上昇に転じた。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が大幅増となり、次いで「合理化・省力化」、「補修・更新」も増加となる。
- 平成28年7-9月期の金属工作機械受注額は、国内・海外受注ともに減少し、前年同期比18.9%の減少となり、4期連続で前年を下回った。



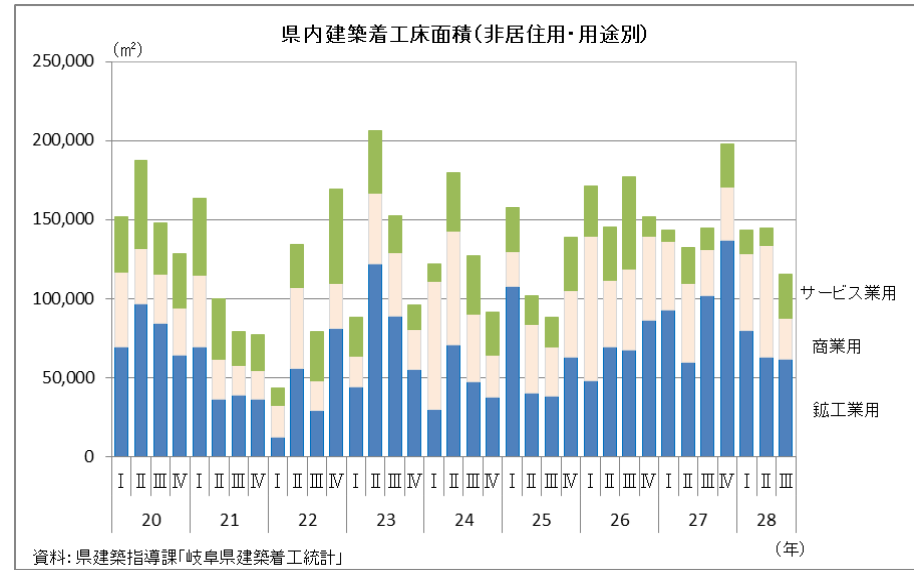
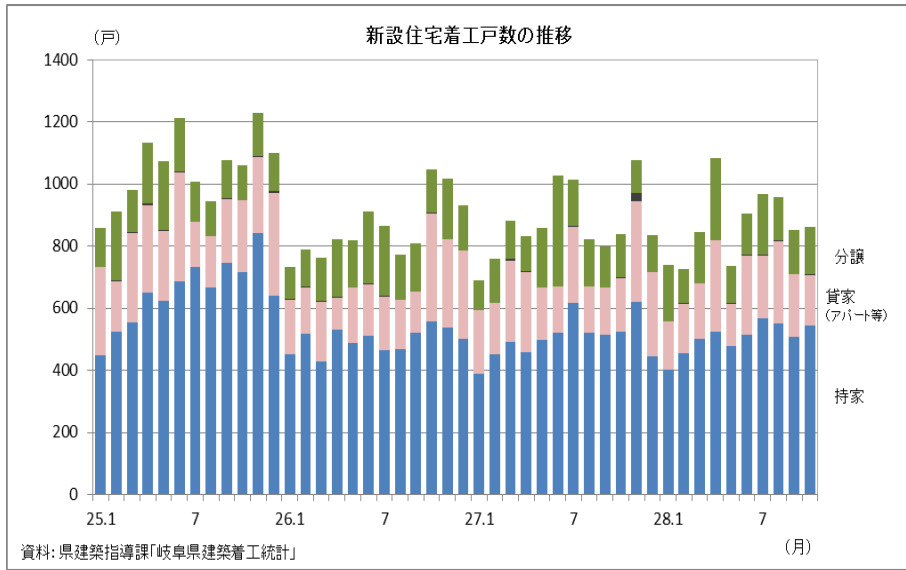
現場の動き

- ◆年明けに航空機関連の検査機器導入を予定。続いて、年央には伸線機の更新を予定している。
- ◆ダイカスト設備の更新予定あり。また、先月、生産ライン増設のための設備投資を行った。(以上、輸送用機械)
- ◆省人化への取組みとして包装機の更なる増設や包装工程用のロボット導入等、積極的な投資を実施。(食料品製造)
- ◆来年3月までに事業用トラックに装着が義務付けられる運行記録計は、全ての車両に装着が完了した。(運輸業)
- ◆店内飲食スペースの設置等店舗への投資を継続実施。店内調理のFF売り場の什器増設を順次実施。(コンビニ)

住宅・建築投資

○10月の住宅着工戸数は、貸家が減少するも持家および分譲の増加により、全体では前月比1.2%の微増となる。また、前年同月比で見ると、持家および分譲がプラス寄与し、3ヶ月連続でプラスを堅持。

○平成28年7-9月期の建築着工床面積は、対前期比、商業用が大幅減となり、全体では20.2%減となる。また、前年同期比で見ると、鉱工業用がマイナス寄与し、20.2%減となる。

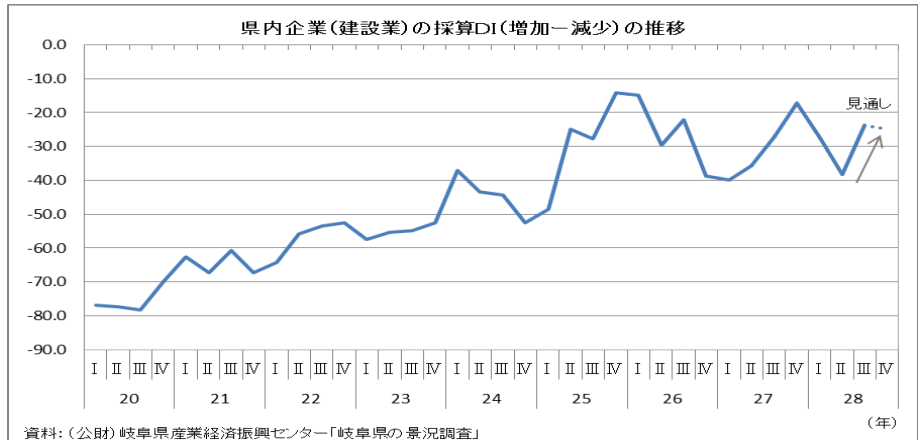
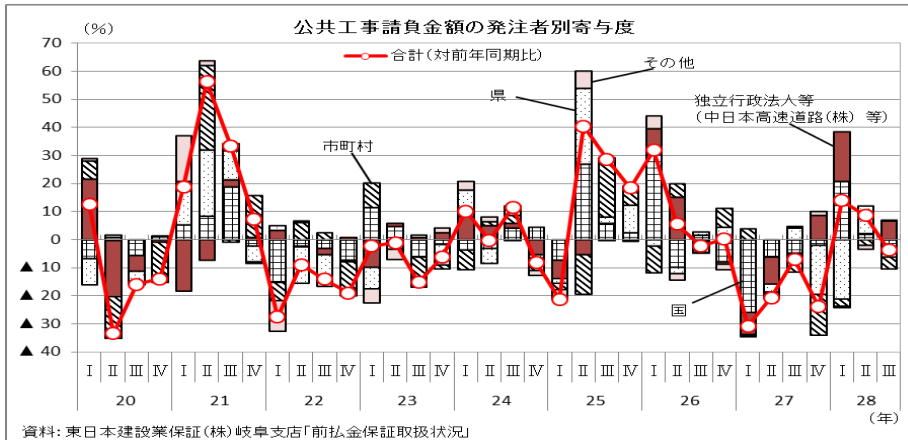
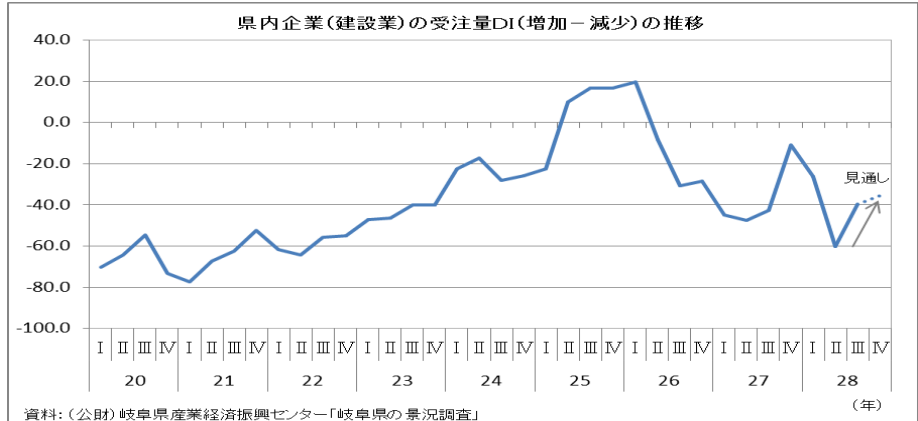
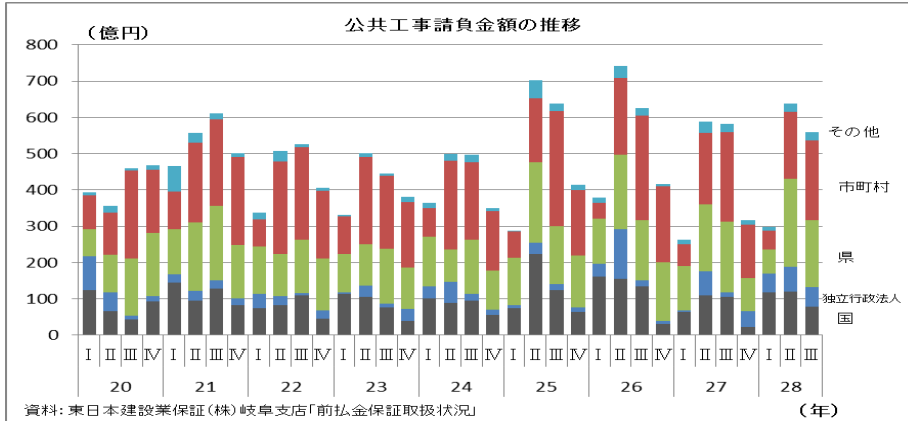


現場の動き

- ◆受注状況及び見込み客は横ばい。最近の傾向として、当社では30代や定年間近のお客が多い。
- ◆受注状況は先月から好転。見込み客、集客は横ばい。ZEH(ゼッチ)への対応は、今まではハウスメーカーの取組みが多かったが、地場の工務店の取組みも増加している。(以上、住宅関連)
- ◆合板の厚物が先月よりも更に入手困難となっており、先月は何とか確保できたが、今月は厳しい状況である。
- ◆売上は社全体で前年比95%となるも、上向き傾向にあり、非住宅の物件が増えてきた。(以上、製材・住宅)
- ◆仕事のある所とない所で二極化しており、特にハウスメーカーと大手プレカットはかつてない繁忙とのこと。(製材)
- ◆原木の引き合いは強くなっているが、山からの出材量が平年よりも少ない状況であり、スギ、ヒノキともに品薄状態。
- ◆原木価格は上昇傾向であるが、製品価格の上昇が見られない。B材(合板用)の需要は良好。(以上、木材市場)

公共工事

- 平成28年7-9月期の公共工事請負金額は、前年同期比で独立行政法人等が大幅増加となるも国や市町村の発注がマイナス寄与し、全体では3.7%減となり3期ぶりに前年を下回った。
- 平成28年7-9月期は受注量DI、採算DIともに下げ止まりをみせ3期ぶりに上昇に転じた。

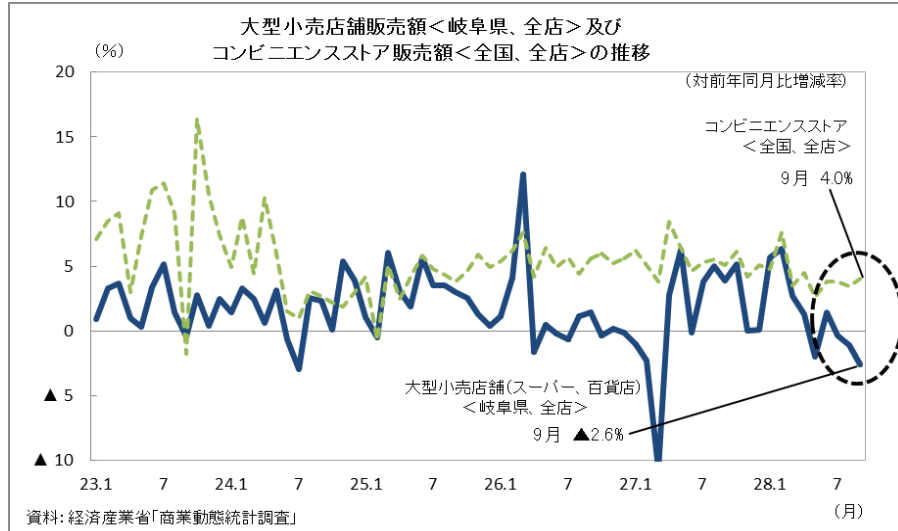


現場の動き

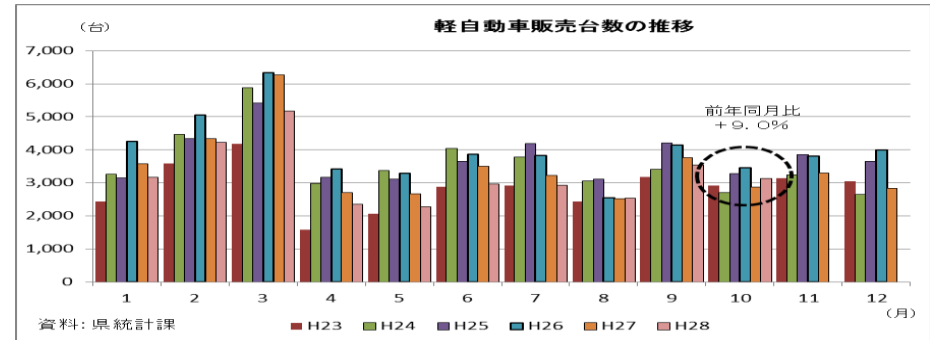
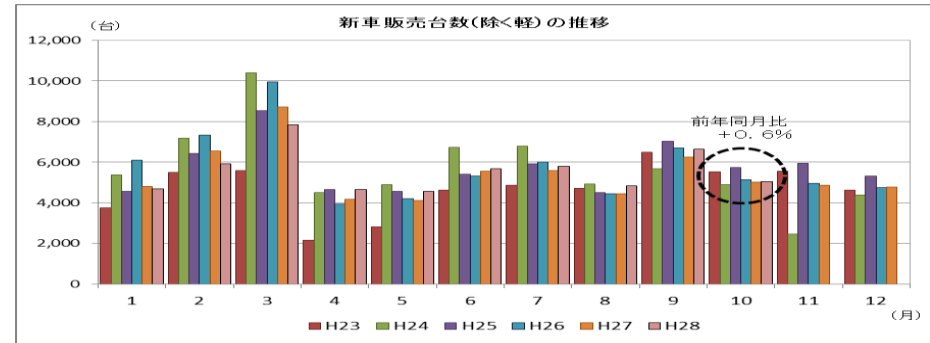
- ◆国・県とも補正予算による案件が増えてきており、多少明るい見通しを持っている。
- ◆現時点で技術者・作業者の不足感はないが、今後の受注状況によっては、不足が懸念される。(以上、業界団体)

個人消費(流通・小売)

- 9月の大型小売店販売額は、前年同月比2.6%減と3ヶ月連続でマイナスとなる。
- 大型小売店及びコンビニ販売額の増減率は年初から鈍化が続き、年央には一旦下げ止まりを見せたが、その後は各々異なるトレンドとなる。



- 10月の新車販売(除く軽)は、前年同月比0.6%の微増となるも7ヶ月連続の増加となる。
- 軽自動車は、同9.0%増と大幅増加に転じた。



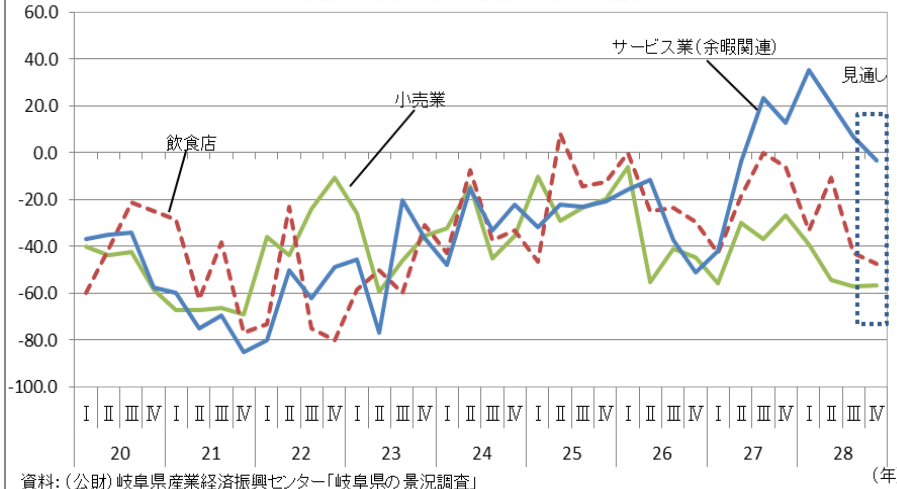
現場の動き

- ◆売上、客数はリニューアルによる一部店舗の閉鎖により全体では減少した。しかし、映画はヒット作が好調を維持しており大幅増加、飲食等のサービスについても冬タイヤの交換客(待ち時間解消)が多く増加した。
- ◆売上は前年同月比、直営店で101%、食品104%、衣料96%、客数は100%強。売上の1品単価は下がっているが、購入品数が増えており、客単価としては上昇している。(以上、大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比105%、客数は同103%、客単価は同102%と好調に推移している。(小売スーパー)
- ◆売上は前年同月比110%。貨物品目は、特に住宅関連が好調である。(運輸)
- ◆売上高、客数ともに前年同月比110%程度。10月は、中食全体では前年同水準となる一方、タバコやチケット等が前年を下回った。11月から惣菜の拡充展開を行っており、出足は好調に推移している。(コンビニ)

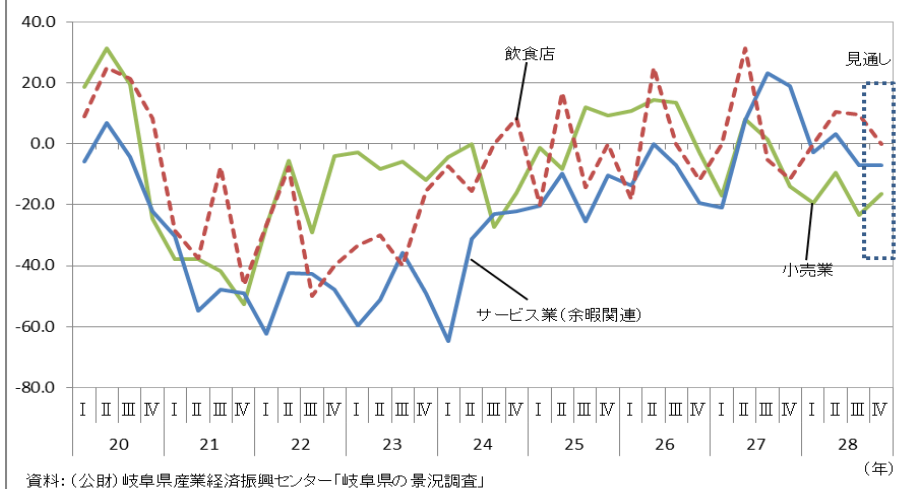
個人消費(流通・小売)－2

○平成28年7－9月期の売上高DIについては、飲食店、小売業、サービス業(余暇関連)ともに減少した。特に飲食店、サービス業は直近3ヶ年で最も低い水準となる。販売価格DIは、飲食店、小売業、サービス業(余暇関連)ともに減少し、中でも小売業、サービス業の減少が目立った。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

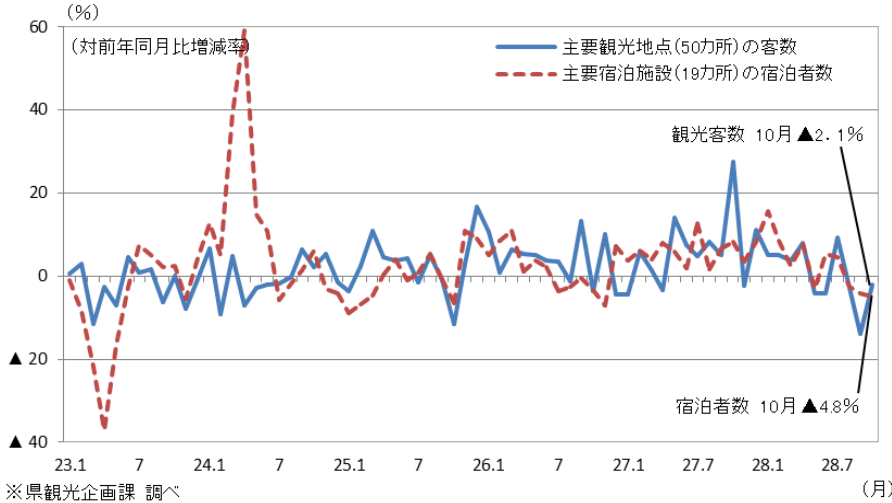
- ◆フェア実施により、飲食、ファッションは堅調に推移。その他、物販、サービス部門は苦戦、生鮮食品スーパーは好調。
- ◆入館者数は前年同月比増。館全体の売上は前年同月比微減となる見込み。(以上、アクティブG)
- ◆神田町でのトランジットモールとサンビルマーケットが重なり、多くの人で賑わった。大手百貨店の割引セールも盛況。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比105%、メガネ店が同101%、飲食店が同100%。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆まるごとバザールは以前よりもテント数が少なかった。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比100%、和菓子店が同95%。(以上、大垣市商店街)
- ◆紅葉が終わり、11月下旬以降観光客が減少。組合員の高齢化・後継者不足により、地元以外の資本が入る例が見られる。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比97%、衣料品店が同94%。(以上、高山市商店街)
- ◆多治見商店街で「第1回まちゼミ」を11月17日から始めた。参加店15店舗。20講座。
- ◆売上は、酒類販売店の前年同月比100%、手芸品店が同95%。(以上、多治見市商店街)

観光

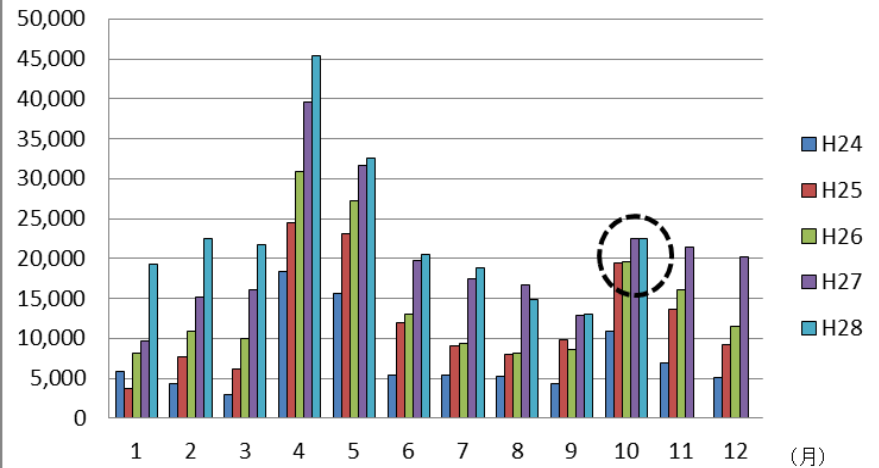
- 10月の主要観光地における観光客数は、前年同月比2.1%の減と3ヶ月連続して前年同月を下回った。
- 一方、主要宿泊施設における宿泊者数は同4.8%の減と3ヶ月連続して前年を下回った。

- 10月の主要宿泊施設における外国人宿泊客数は、前年同月比ほぼ横ばいで堅持したものの、前年伸び率は鈍化傾向にある。
- 平成28年1-10月の外国人宿泊客数は、約23.1万人となり、前年同期比約15%増となった。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)

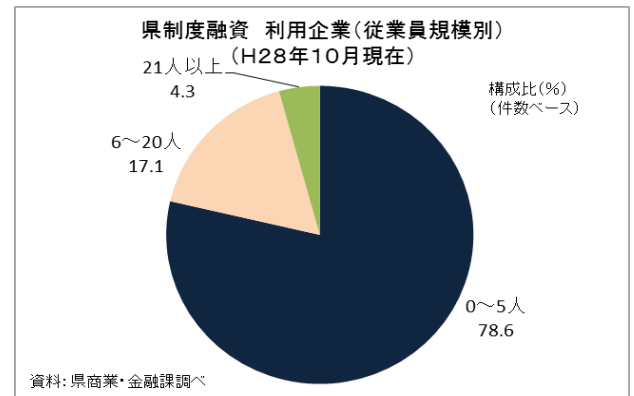
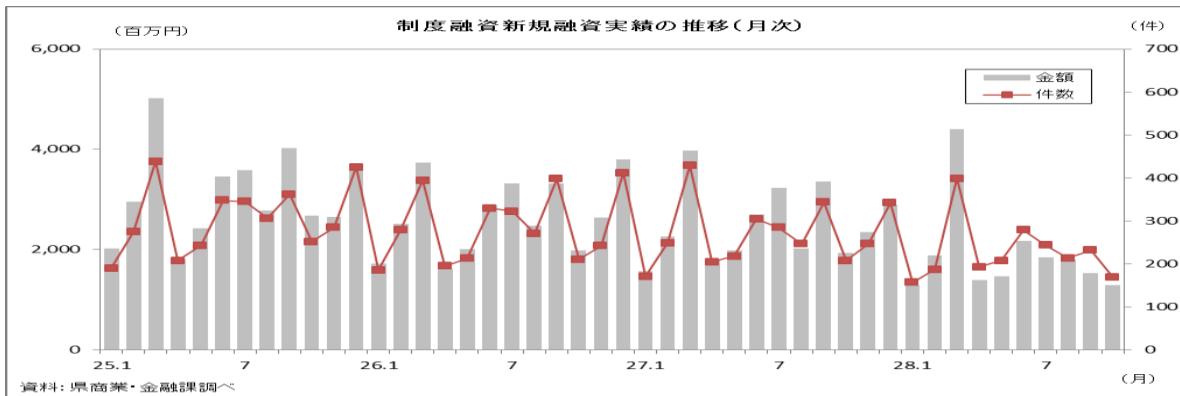
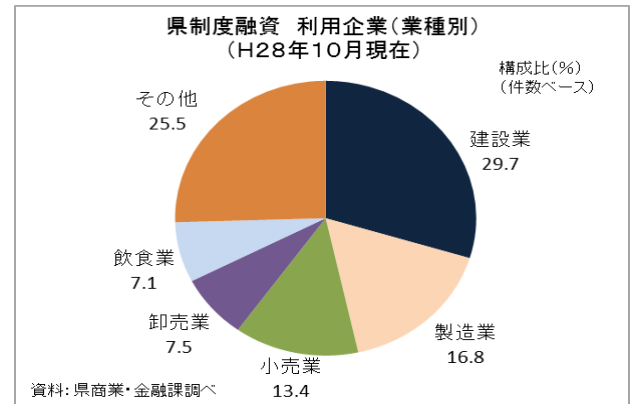
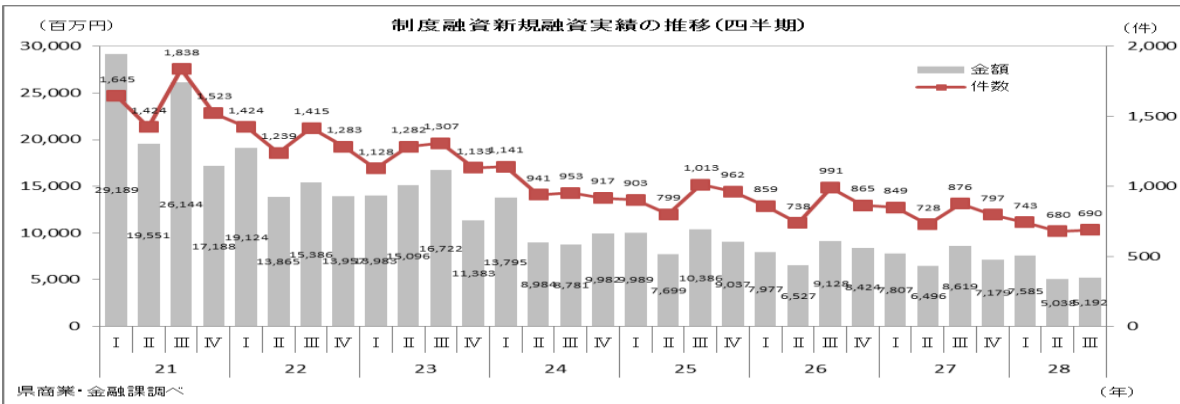


現場の動き

- ◆催事の減少に加え、中国・台湾をはじめとしたアジアからの観光客の勢いに陰りが見られ、前年同月に比べ、観光客数・宿泊客数ともに減少となった。(観光地・宿泊施設の総括)
- ◆個人・団体ともに前年とほぼ同程度。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆中国からの宿泊客が減少している。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆大・中規模団体は減少傾向であるが、小規模団体の受注が増加傾向にある。(高山市内の宿泊施設)
- ◆中東からのお客様が目立つようになった。(高山市内の宿泊施設)
- ◆トップシーズンに入り、個人客を中心に、集客は好調。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は、例年年央から秋口にかけて増加する傾向にあるが、本年は横ばいで推移した。
- 10月の実績は、金額が前年同月比32.8%減となり、7ヶ月連続して2桁減となった。また、件数も同18.8%減と11ヶ月連続で減少した。
- 建設業・製造業・小売業の利用が約6割を占め、従業員5名以下の零細企業が約8割を占める。

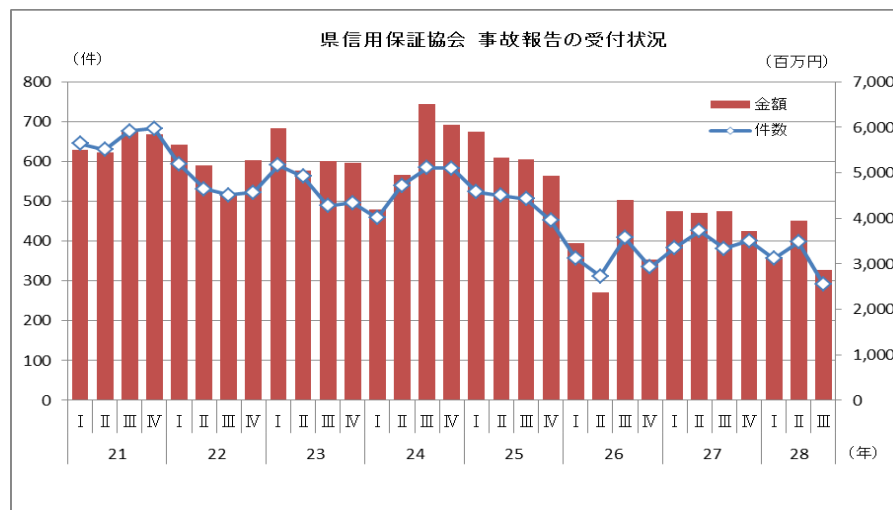
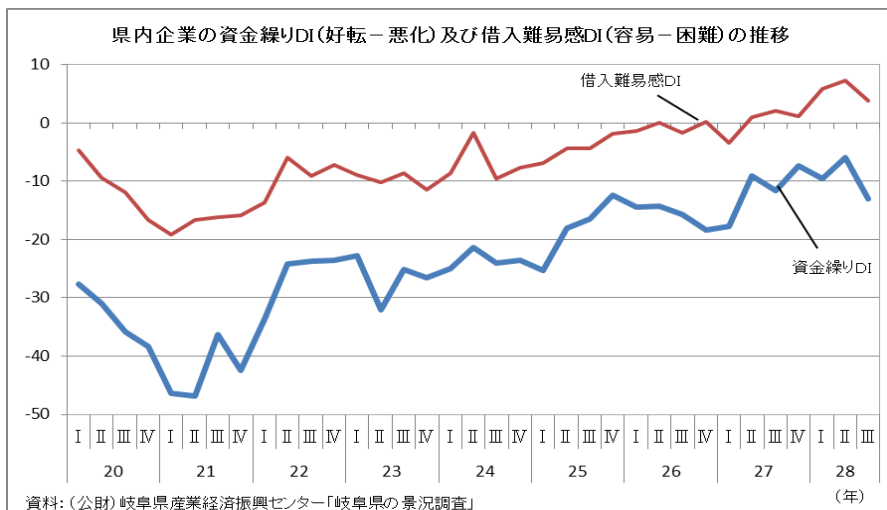
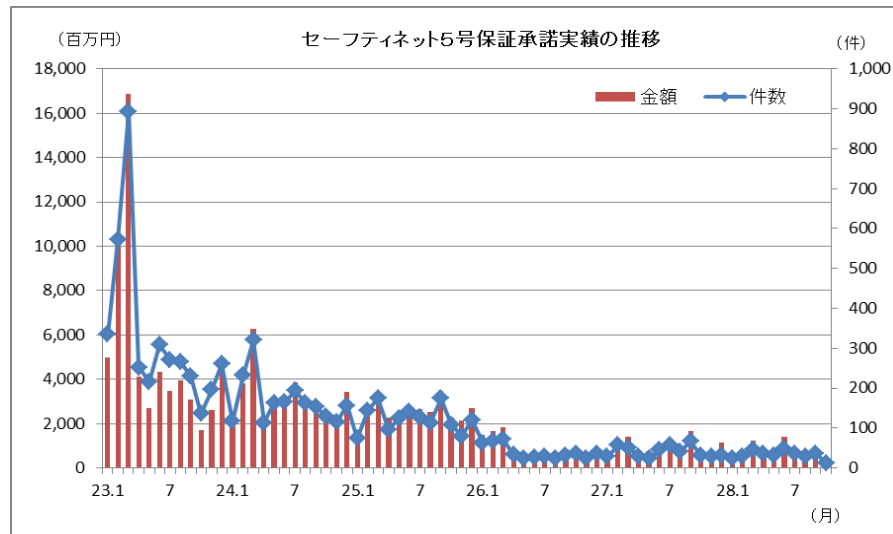
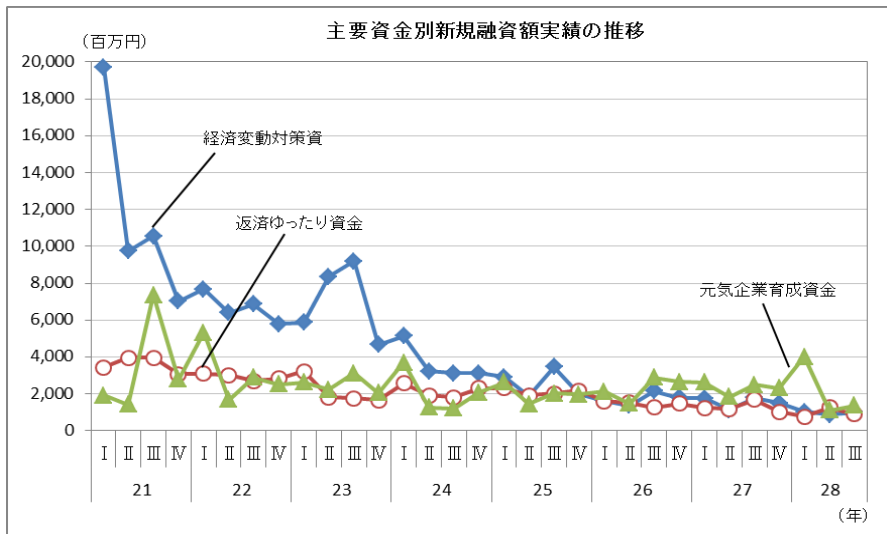


現場の動き

- ◆設備資金は更新需要程度であり、大型案件もなく、ほぼ横ばいで推移。
- ◆ここ最近の円安の影響で、輸出企業が伸びてくるものと思われ、期待感が広がっている。(以上、金融)
- ◆今後、原材料費や燃料費等が高騰してくる可能性もあり、若干懸念しており、動向を注視している。(非金属自動車)

資金繰りー2

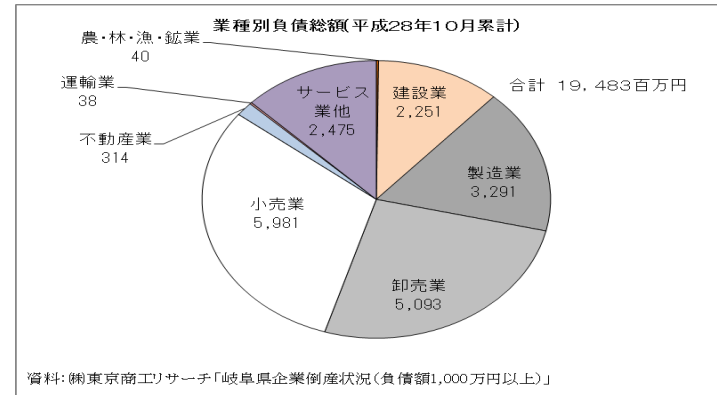
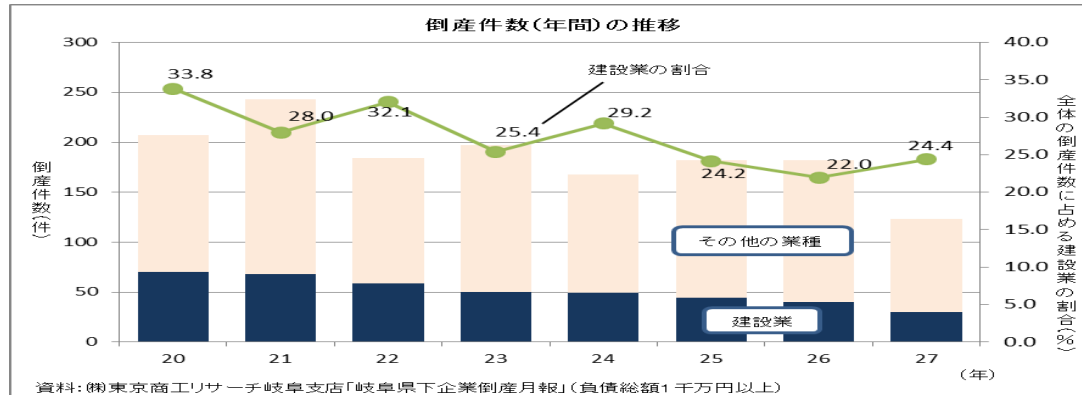
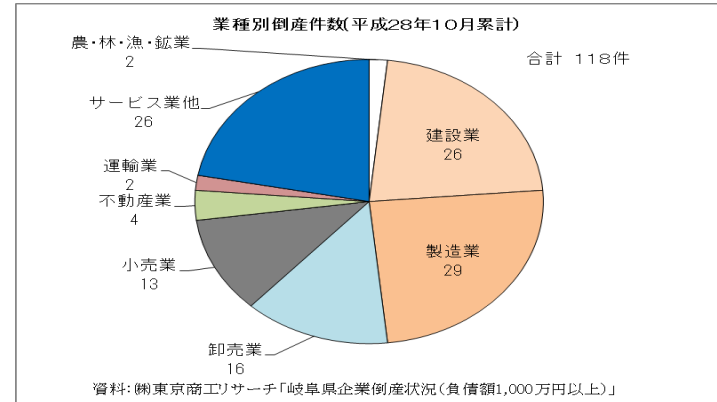
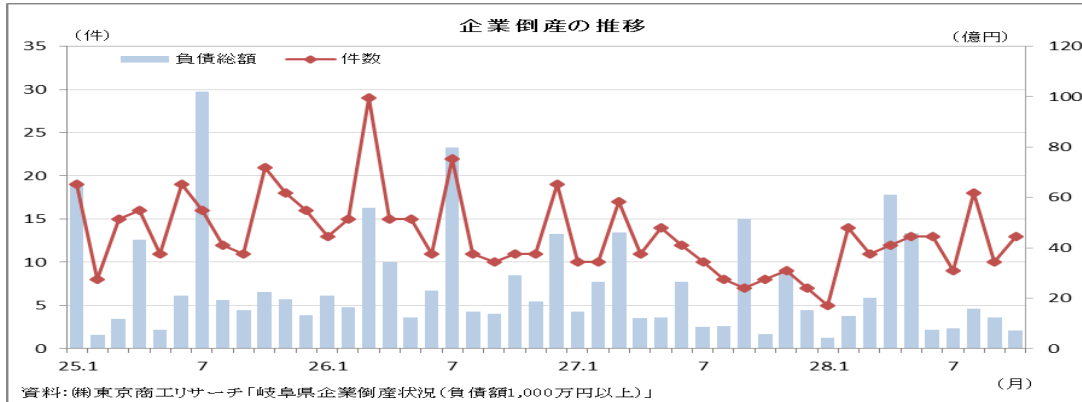
- 平成28年7－9月期の借入難易感DIは3.4ポイント低下し、3期ぶりに前期を下回った。
- 平成28年7－9月期の資金繰りDIは7.0ポイント低下し、2期ぶりに前期を下回った。
- 事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、直近2年では件数、金額ともに増減を繰り返しながら足踏み状態が続いていたが、平成28年7－9月期は件数で過去最低水準を更新した。



倒産

○10月の倒産件数は前年同月比62.5%(5件)増の13件、負債総額は同26.3%増の7億15百万円となる。

○建設業、製造業、卸売業で、倒産件数の6割、負債総額の5割以上を占める。



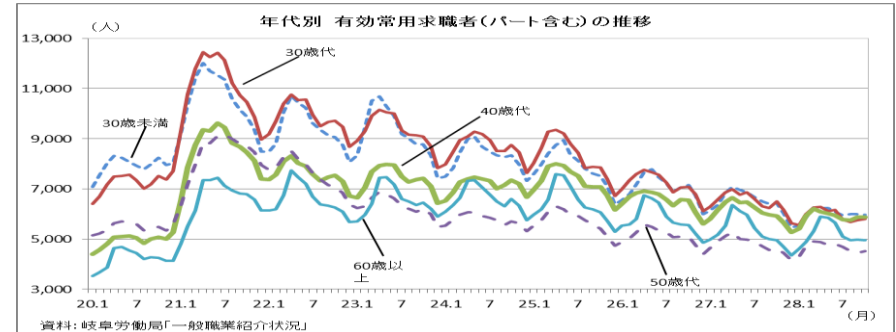
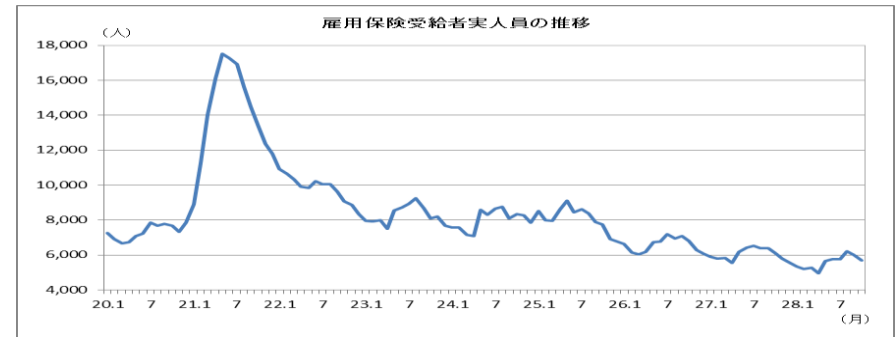
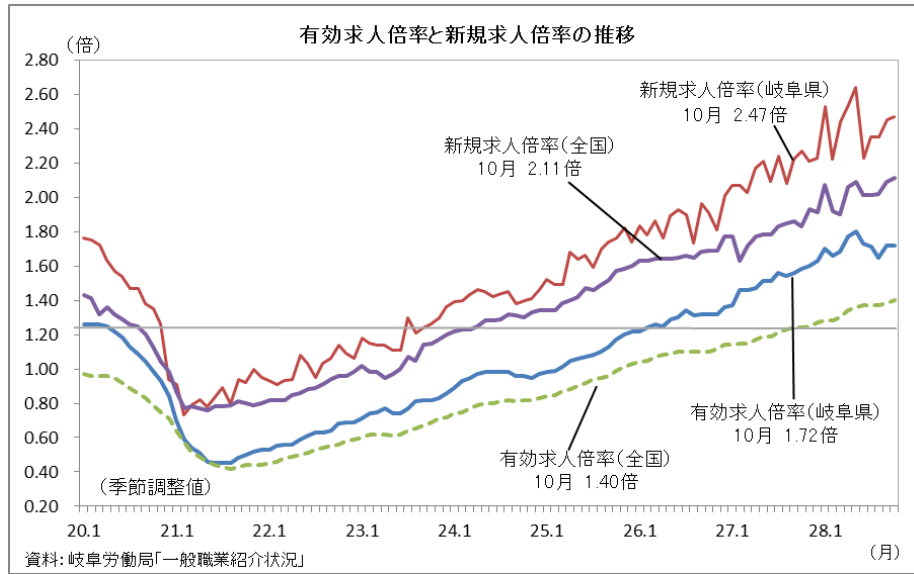
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆県内の1月から10月度までの累計倒産件数は118件と、前年同期間の107件から11件増加するなど、先月に続きここに来て倒産発生件数は増加傾向を見せ始めている。
- ◆経済情勢としては、為替相場の円高基調などや、個人消費の鈍化もあり景気回復にもたつき感があるため、企業経営を取り巻く環境は引き続き厳しいものが予想される。
- ◆今後の見通しとしては、年末等の資金需要期に差し掛かることから、体力が乏しく資金調達余力が限られる中小零細企業などを中心に資金的に行き詰まる企業が増加する懸念は捨てきれない。

雇用

- 10月の有効求人倍率は1.72倍と前月より±0の横ばい。
- 10月の新規求人倍率は2.47倍と前月より0.02ポイント上昇した。

- 10月の雇用保険受給者人員は前年同月比6.5%減と40ヶ月連続で前年を下回った。



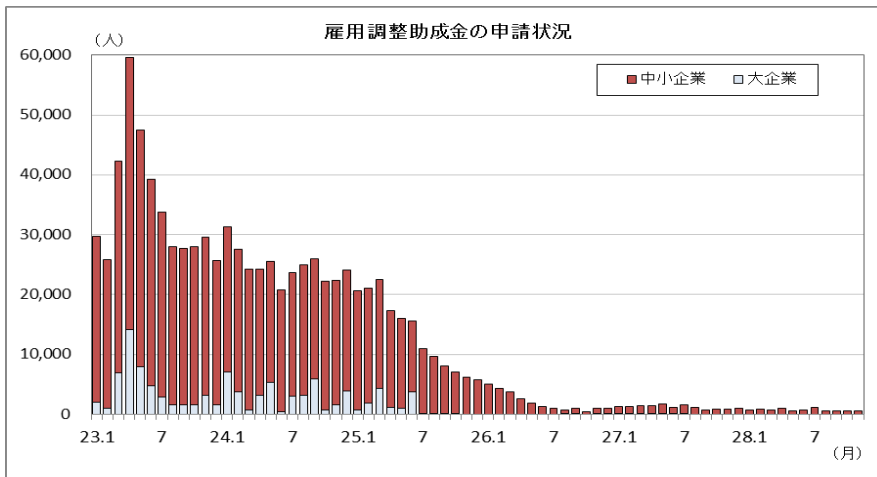
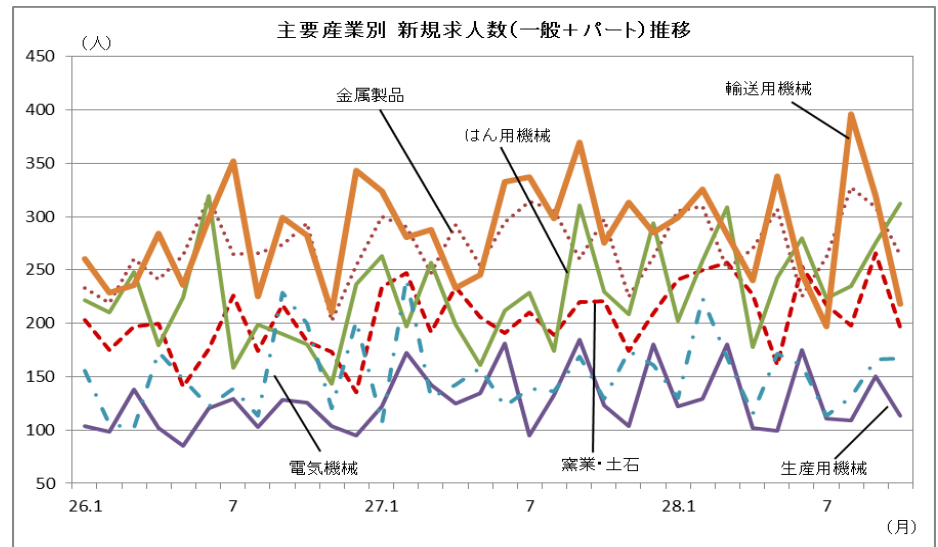
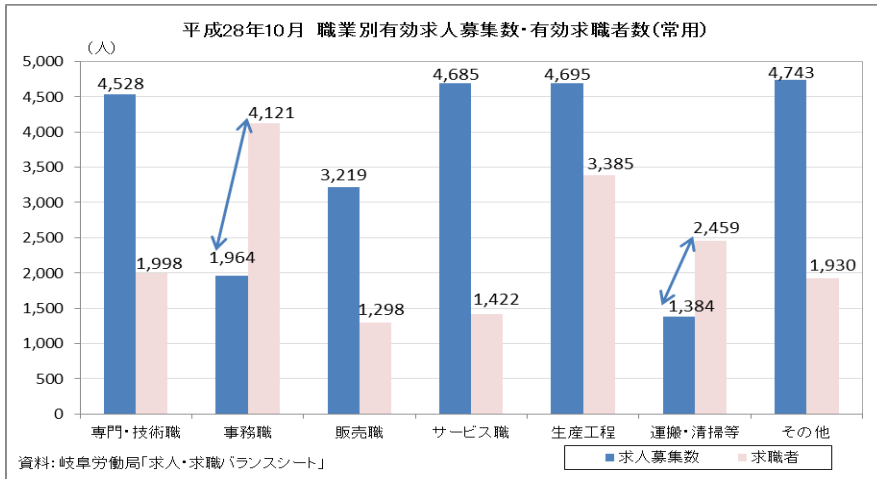
現場の動き

- ◆大学新卒の採用が難しいため、若年層の中途採用にも注力している。商工会議所等の就職関連イベントへの出展等により、4名確保できた。
- ◆人材派遣の質が低下しているため、今後は正社員の中途採用に切り替えていきたい。(以上、輸送用機械)
- ◆中小企業の求人は厳しい状況が続いており、海外実習生の受入れも視野に入れている。(プラスチック製造)
- ◆技術系の人員が不足感があるが、中途採用等で何とか対応している状況。(電気機械器具製造)
- ◆若手のデザイナー等を積極的に採用している大規模メーカーと新規雇用する余裕がない小規模メーカーとで二極化が進んでいる。(アパレル)
- ◆求職者は求人数の増加に伴い、名古屋方面も含め、来春に向けた転職活動への動きが昨年度より活発である。
- ◆年度末に向け建設・製造メーカーでの人手不足感は変わらず、短時間労働や女性活用への動きあり。(以上、人材派遣)

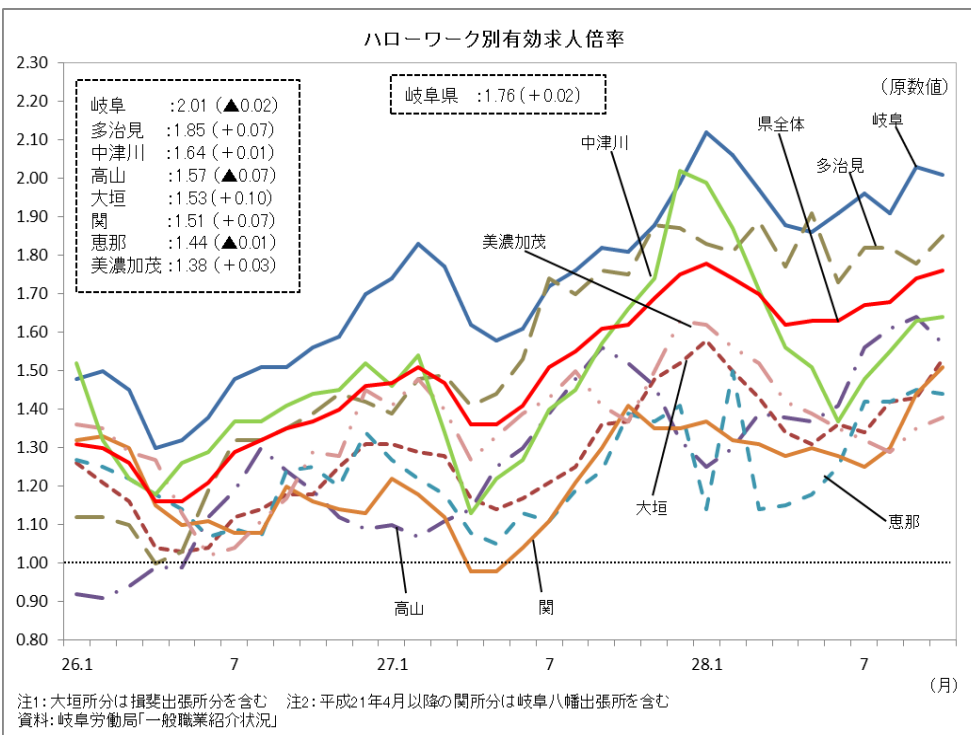
雇用(職業別)

- 「事務職」および「運搬・清掃等職」の求人倍率は0.5%程度となり、依然として求人募集数に対する求職者数のギャップが大きい。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、足下、月500人程度で推移。

- 10月の主要産業における新規求人数は、はん用機械と電気機械が前年同月比30%程度的大幅増加となる一方、輸送用機械を筆頭にその他全ての業種で同二桁減となるなど、業種により明暗を大きく分けた。
- 前月比で見ると、特に輸送用機械及び窯業・土石がともに25%超の減少となり、乱高下を繰り返す。



雇用(地域別)



○10月のハローワーク別有効求人倍率は、岐阜、高山、恵那を除くその他地域で前月から上昇した。

現場の動き(先月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

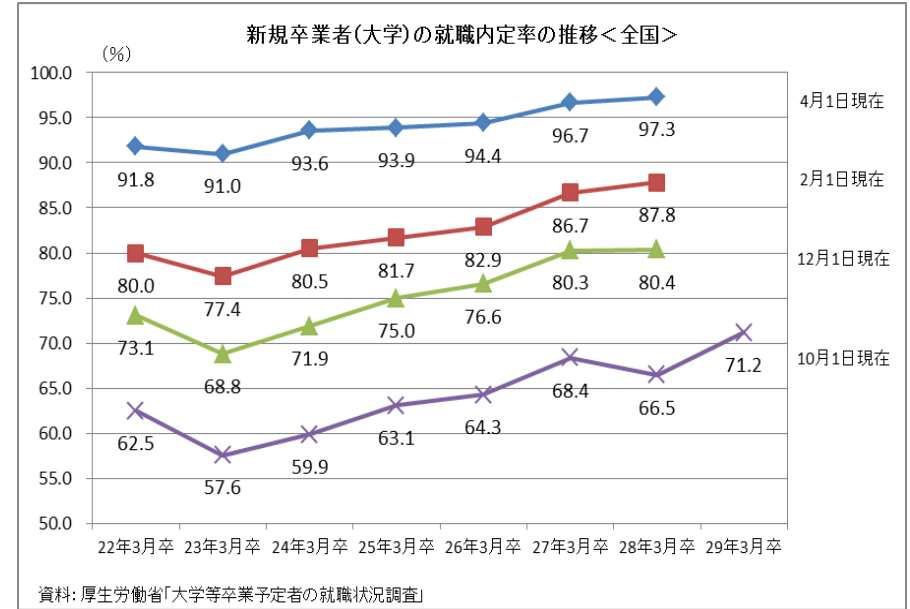
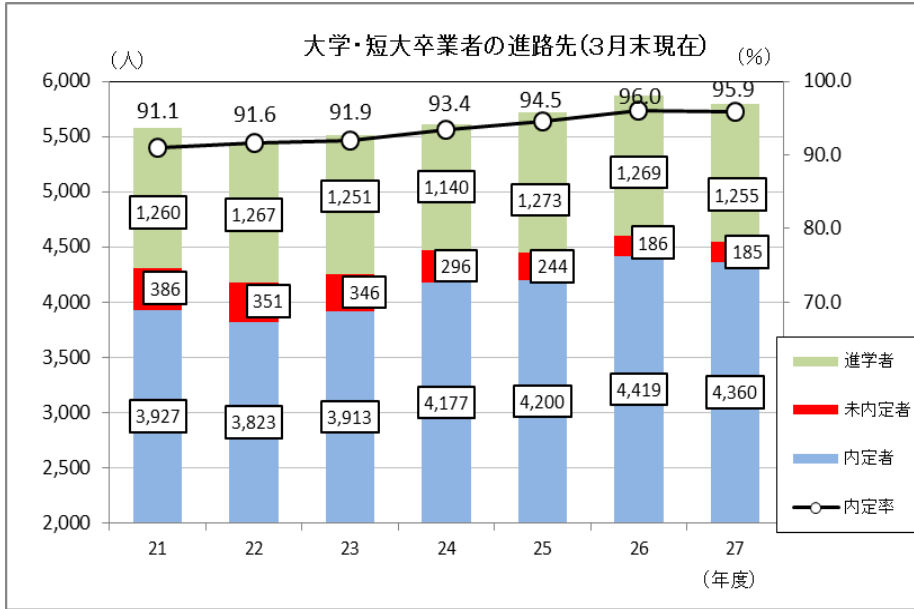
- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子>※前月比

- ◆中津川はやや混雑している。
- ◆岐阜、大垣、多治見、高山、美濃加茂がやや空いている。
- ◆恵那、関は同じくらい。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○3月末時点の大学・短大卒業者(平成28年3月卒業)の就職内定率は、前年比0.1ポイント減少したものの、依然として高い水準となっている。



現場の動き(平成29年3月卒の内定状況)

【岐阜県内の主な大学】

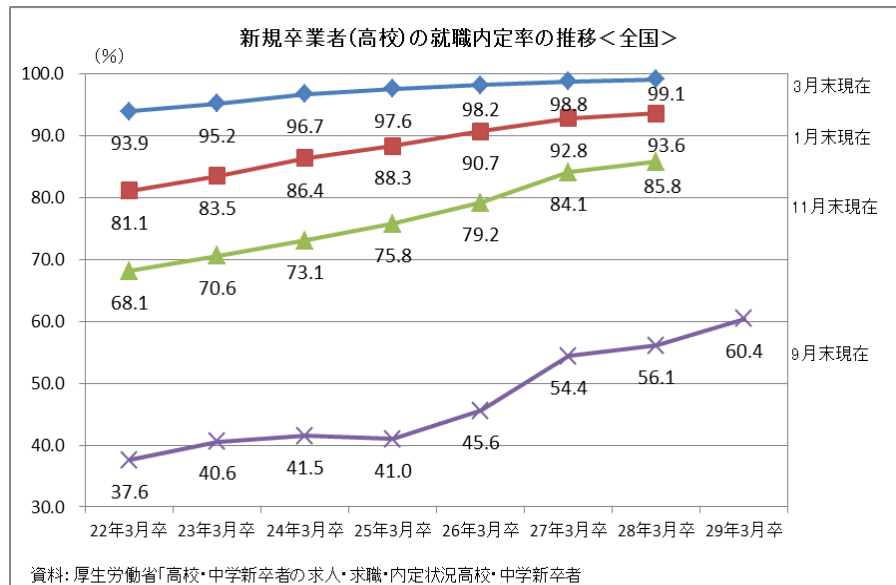
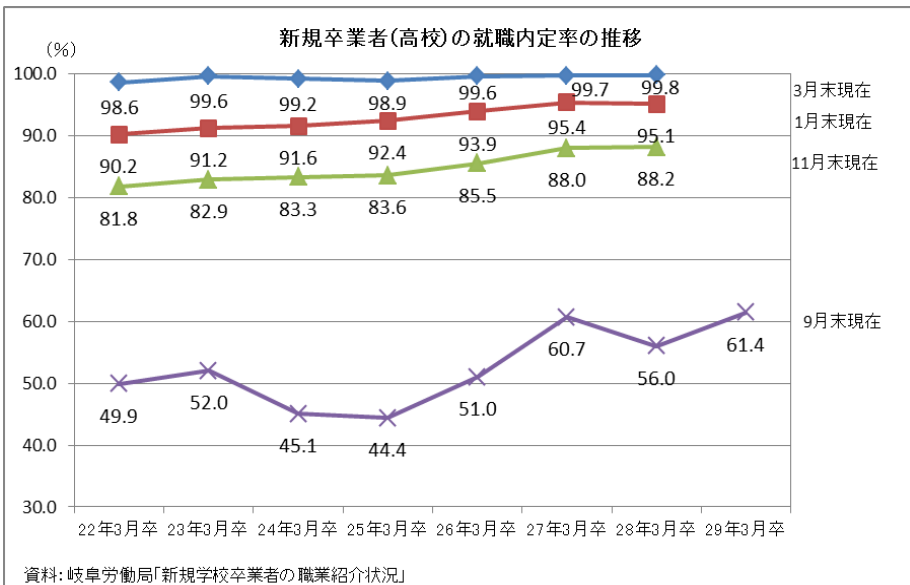
- ◆内定は学部で75%(前年比+10%)、大学院で87%(同+11%)程度と大幅に上昇している。中でも理系が内定率の引き上げに牽引しており、学科によっては99%のところもある。文系は前年並みである。
- ◆内定は73%強(10月末)。オール岐阜・企業フェスでは県からバスを出してもらい、40名程度が参加した。

【愛知県内の主な大学】

- ◆内定は87%程度(10月末)。18卒の学生には、講師を招いての業界研究講座を11月下旬から開始した。
- ◆内定は70%超。17卒の就活中の学生は、WEBでの情報収集に留まり、実際に動けていない。卒業後に改めて就活しようといった諦めムードも感じられる。
- ◆内定は90%弱。18卒の学生には、毎週セミナーを開催し、中には就活を終えた4年生が講師を務める講座もある。

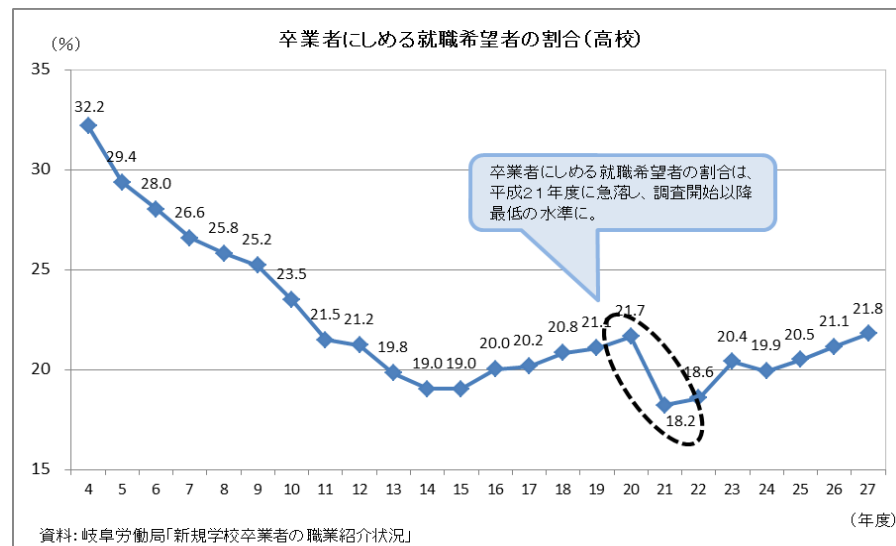
雇 用(高校新卒者の就職)

○9月末時点の高校卒業生(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比5.4ポイント増加し、直近8年間に於いて最も高い水準となり、全国比でも1.0ポイント上回っている。



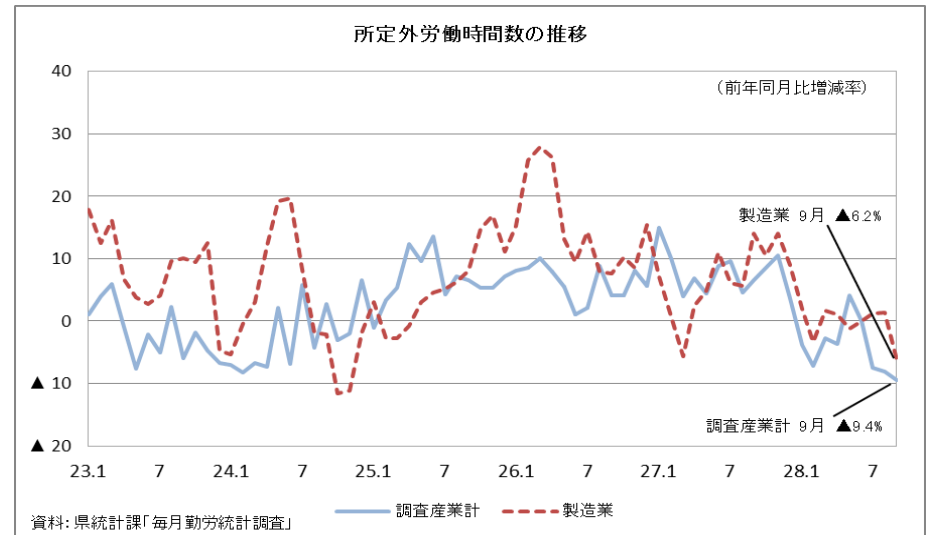
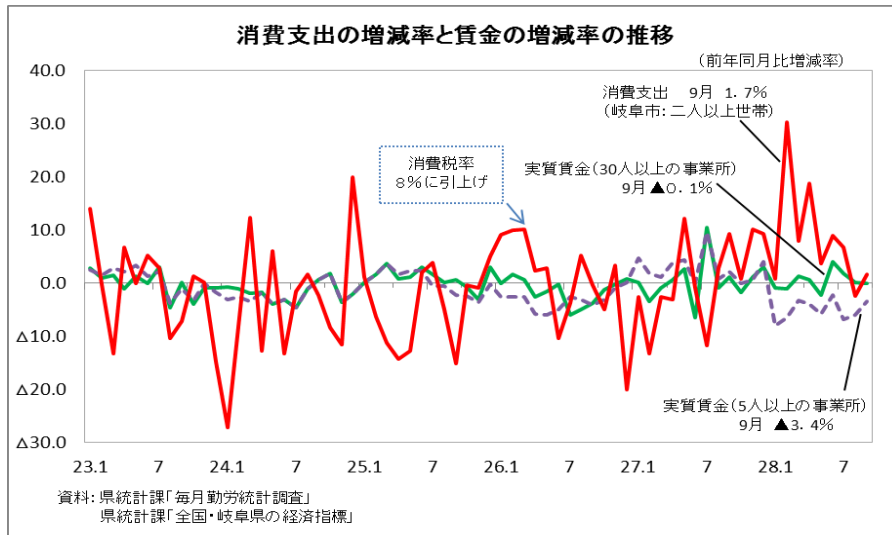
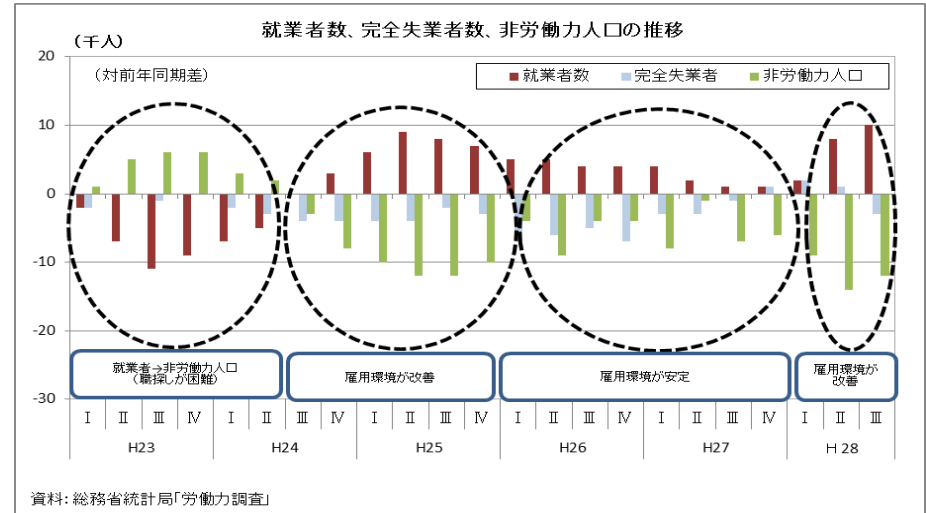
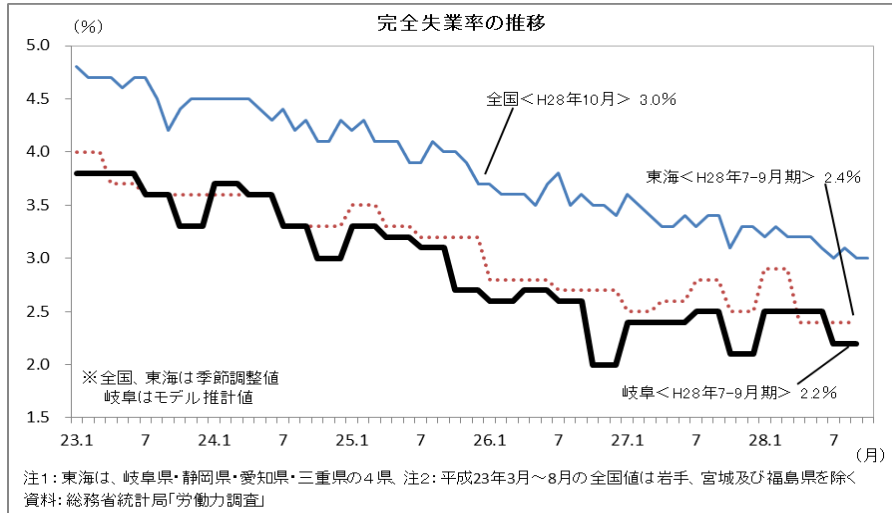
現場の動き(H29.3卒の求人・内定状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人、内定ともに増加。
- <ハローワーク大垣> 求人、内定ともに横ばい。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク高山> 求人は減少。内定は横ばい。
- <ハローワーク恵那> 求人、内定ともに増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人、内定ともに増加。
- <ハローワーク中津川> 求人、内定ともに増加。



雇 用(完全失業率)

- 平成28年7-9月期の完全失業率は2.2%となり、依然として全国に比べて低い水準にある。
- 賃金増減率は、30人以上の事業所が減少傾向にある一方、5人以上の事業所は増加傾向にある。
- 9月の所定外労働時間数は、前年同月比で製造業が大幅減となり、調査産業全体でも減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、輸送機械（主に自動車産業）における挽回生産やはん用機械、金属製品の持ち直しの動きが見られ、生産は前年同月水準まで回復しつつある。鉱工業生産指数は、一部業種で生産の弱含みが見られるものの、全体としては持ち直しを見せはじめている。
- 為替の動きについては、直近の円安により輸出企業の多い東海圏では、製造業を中心に企業収益は減益基調から一転、業績の上振れが期待され、目が離せない状態が続く。また、原油価格の下げ止まりによるエネルギー価格等の上昇が製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が進んでいない企業が見受けられる。
- 地場産業は、年初から続く円高トレンドにより、原材料費の低減には追い風であるものの、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合など厳しい状況が続いている。
- 個人消費は、小売店等の売上前年比増減率が年初より鈍化が続き、一旦下げ止まりをみせるも、足下は減少傾向にある。また、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。
- 観光は、催事の減少に加え、中国・台湾をはじめとしたアジアからの観光客の勢いに陰りが見られ、夏以降は観光客数・宿泊客数ともに前年比減少傾向にある。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。但し、多くの業種では人手不足感が拡大しており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。
- 企業の資金繰りは、製造業・非製造業ともに低下傾向にある。借入難易感是非製造業で若干低下がみられるが、製造業を中心に緩やかに改善している。